

Niigata Philosophy Seminar

誰でもあって 誰もいない主体

ハイデガー「存在と時間」におけるダス・マン（ひと、世人）再読

講師 池田喬
(明治大学文学部准教授)

日時 7月22日(金) 18:15~19:45
場所 新潟大学五十嵐キャンパス
総合教育研究棟D-301

講演会概要

ハイデガーの『存在と時間』には、誰でもあって誰でもない得体の知れないダス・マンが日常性の主人だという印象的な議論がある。講演者の理解では、この議論は、「規範と責任」という道德の根本現象は「順応と逸脱」という非道德的（a-moral）で自然な現象に基づくのであり、その限り道德はそれ自体では基礎付けられない、という挑発的主張を含む。この主張は、ただし、道德に対する懐疑論とも無縁であり、むしろ、私たちの道德生活に現実的なイメージを与える、規範や責任の自然な概念（natural concept）の獲得に貢献する。このことを、アイヒマン事例とヘンリー・ソローの森の生活を手がかりに示したい。

【池田 喬 氏プロフィール】

1977年生まれ。明治大学文学部准教授。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学）。専門は、ハイデガーを中心とする現象学派の哲学。英語圏の現代行為論・倫理学と現象学の関係、日本の障害当事者研究と現象学の関係についても考察している。著書に『ハイデガー 存在と行為』（単著、創文社、2011年）、『当事者研究の研究』（共著、医学書院、2013年）、『始まりのハイデガー』（共編著、晃洋書房、2015年）他。

